

教職員自主的研究推進事業 実績報告書

研究グループ名【 若葉の会 】

代表者の所属・職・氏名	芦屋市立潮見小学校	連絡先	住所	芦屋市潮見町1番2号
	教諭・高橋 拓夢		TEL	0797(34)0721
			FAX	0797(32)6175
		e-mailアドレス	Takahasi.819@edu-ashiya.ed.jp	

活動実績

研究テーマ	自分の考えを表現し、話し合う力を育てる授業創りをめざして
研究の概要	<p>児童の実態を踏まえ、研究テーマを「自分の考えを表現し、話し合う力を育てる授業創り」と設定した。そこで、研究グループ構成員は、授業の中で自分の考えを表現する学習場面を設定して教材研究を行い、学習指導の方法を模索した。</p> <p>研究方法として、授業を公開し、大阪教育大学教育学研究科准教授を招聘し、指導を受ける。事後研究会で指導法の工夫を交流し、各自の授業創りに生かすことにした。</p> <p>5月25日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 場所 芦屋市立潮見小学校 2 参加人数 9名 3 内容 研究計画立案、児童の話し合う力についての実態交流、掲示物の交流 4 成果 児童の実態として、①文末まで明瞭に話せないこと、②全体学習での発言者が限られてしまいがちなことなどの課題が共通して見られた。教員として児童の発言をどのように関連させていくかという課題があることも挙げられた。学習のポイントを掲示するのは、復習や振り返りの際に役立つことが報告された。 <p>6月22日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 場所 芦屋市立潮見小学校 2 参加人数 9名 3 内容 第2学年国語科公開授業参観、事後研究会 4 成果 <ol style="list-style-type: none"> (1) スイミーの気持ちを、感想語彙を使ってセリフに表すことができた。 (2) 使いたい表現のワークシートを見て、大切な言葉を使えていた。 5 課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 話し合いを意識するあまり、「スイミー」の感想の交流というより、話し合いの仕方の練習のようになってしまった。 (2) いいなと思った人の報告の際、まとめて板書するだけでなく、良いと思った理由を問えば、全体に広げられた。 (3) 話し合いの振り返りのワークシートが、上手く活用されていなかった。最初に話した人の考えを書く児童が多かった。教師の説明不足であった。

7月26日

1 場所 芦屋市立潮見小学校

2 参加人数 8名

3 内容 スピーチやグループにおける話し合いについての指導方法について

①日常、朝の会で行っている子どもたちのスピーチの題材を交流する。

②グループで話し合う時の司会者の指導について交流する。

③スピーチや話し合う時の指導内容と評価について資料を参考に分析する。

参考図書：「話す力・聞く力の基礎・基本」井上一郎著 明治図書 2008年

4 成果

(1) スピーチの題材が参考になった。子どもたちが、堂々と話せるように継続して指導を行いたい。

(2) 司会のマニュアルが具体的で参考になった。早速作って、試してみたい。

(3) 指導内容と評価を一致させて、子どもたちの能力を伸ばしていきたい。

8月26日

1 場所 芦屋市立潮見小学校

2 参加人数 9名

3 内容 2学期の道徳授業における中心発問研究

4 成果

(1) 自分だったら～ように発問すると考え合った。具体的な助言を受け、参考になった。

(2) 本時の導入において、道徳的価値について今までの生活体験を振り返らせたり、端的に意味を問うたりして関心を持たせることの必要性を理解した。

(3) 主人公の気持ちの変わり目を取り上げて発問を作ることが分かった。

5 課題

(1) 導入時において道徳でも学習の目あてが設定できるだろうか。

(2) ワークシートを工夫して、児童の思いを把握できるようにし、評価研究に繋げたい。

9月23日

1 場所 芦屋市立潮見小学校

2 参加人数 9名

3 内容 第1学年算数科公開授業参観，事後研究会

4 成果

(1) 2本の紐をペアで長さ比べするという活動は、二人でしなければできないので、ペアで行う必然性があり、子どもたちは「端を揃え」という言葉を出しながら、長さを比べる姿が見られた。

(2) 班活動では、自分の考えを試す児童も、周りの友達の様子を見て、たくさんの比べ方が広がっていき様子が見られた。

5 課題

(1) 2本の鉛筆の長さを比べるときに、間違った比べ方も板書として残しておいた方が、「端を揃える」という意味を理解できただろう。

(2) 子どもたちは、葉書きの比べ方を考える活動で、直接比較から間接比較まで考えることができていたので、教師は折って比べる方法があることを紹介する程度でよかった。

- (3) 「□は□より長い」という短冊ではなく、単元を通して活用できる「□は□より□」という短冊の方がよい。

9月28日

- 1 場所 芦屋市立潮見小学校
- 2 参加人数 9名
- 3 内容 第4学年算数科公開授業参観，事後研究会
- 4 成果

- (1) 線を引くことを最初に伝えたことで、本時の目標「複合図形を既習の形に分けて面積を求めることができる。」を達成することができた。
- (2) 線を引くことでできた長方形や正方形を、赤色や青色の画用紙で示したので、それらを視覚的に捉えることができた。
- (3) A児については、線を引く場所が、班の他の人と違うことを褒められたことによって意欲的に取り組むことができた。前時の振り返りの場面で発表したことによって、その後の授業への意欲へとつながり、前時の内容を用いて面積を求めることができた。

5 課題

- (1) 何のために線を引くのかをおさえることができなかつたため、説明を考えるときに何を書いたらよいか分からず、説明の内容が、式についてのみになっている児童がいた。
- (2) 同じ図形にもかかわらず、班の人と答えが違っている場合など、話し合いが深まるきっかけになるような場面での助言が必要であった。
- (3) どこに線を引くかについては聞くことはできたが、どう分けるのかについても聞いていれば、長方形や正方形をより意識させることができたと思われる。
- (4) 分け方の名前について、算数的では、縦や横という言葉で表すのではなく、長方形や正方形という言葉で表した方が適切であった。補助線という言葉も教えてもよかった。

10月21日

- 1 場所 芦屋市立潮見小学校
- 2 参加人数 9名
- 3 内容 第5学年体育科公開授業参観，事後研究会
- 4 成果

- (1) ゲーム回数を増やすことで、子どもたちのスキルアップ向上に大きく繋がった。
- (2) ゲームの前後に話し合いを設けることで、チームメイト同士でいろんな声掛けが生まれた。

5 課題

- (1) ホワイトボードなどに子どもから出た話し合いの意見を記入して、視覚的にわかりやすくしておく。(視覚支援)
- (2) 基本となるオーバーハンドパスやアンダーハンドパスのモデルとなる図を表示しておく。(視覚支援)
- (3) どういう声掛けをするかの話し合いを設けたが、話し合う時間設定が上手くいかず、内容の濃い話し合いが行えなかった。話し合いが上手くいくように、話しやすい題を用意する。

10月31日

- 1 場所 芦屋市立潮見小学校
- 2 参加人数 9名
- 3 内容 第3学年算数科公開授業参観, 事後研究会
- 4 成果

- (1) 1つ目の目標を達成できた。
- (2) 子どもたちは、実物投影機を使って、効果的な発表ができた。

5 課題

- (1) 2つ目の目標に関しては、単位分数の何個分かに着目して解かせることができなかった。
- (2) 手順からのアプローチが甘かった。手順を踏むことはできていたが、一つ一つの押さえが甘く、教師からの説明が不足していた。単位分数の押さえが甘かった。
- (3) ワークシートが本当に必要か考える必要があった。子どもに自ら書かせて、考えさせてもよかった。
- (4) 子どもの発問を授業に取り入れて、子どものイメージを膨らませる必要があった。
- (5) 子どもの疑問や間違いを拾って、切り返ししなければならない。 $\frac{3}{10}$ にならないということを押さえられていない。そうすれば、子どもたちの話し合いのレベルも上げることができた。
- (6) 統一された言葉づかいを徹底する。「何等分」や「1つ分の大きさ」は、特に本授業のキーワードであったため、徹底されなければならなかった。
- (7) 板書に画用紙を貼りすぎていたため、特に重要な点がわかりにくかった。

11月30日

- 1 場所 芦屋市立潮見小学校
- 2 参加人数 9名
- 3 内容 第5学年社会科公開授業参観, 事後研究会
- 4 講師 大阪教育大学准教授
- 5 成果

- (1) 一人作業と流れ作業を体験してみることで、流れ作業の効率の良さを子どもたちに感じさせることができた。
- (2) 流れ作業では、条件を厳しく揃えることなく、各自の工夫に任せたが、先にパーツを並べたり、糊をまとめて付けたら、班の中で助言や手助けをしたりする等の工夫や協力が見られた。

6 課題

- (1) 速くペーパーカーを作ることに意識が向いてしまった。本単元の目標は人々の工夫や努力に目を向けるべきであるのに、作業中心の展開であった。子どもたちから発言を引き出し、実際の工場へとつなげて考える時間をより確保すべきである。
- (2) 今回の流れ作業体験は、確かめではなく、単元の始めに行って、子どもたちに興味や疑問点を持たせ、次時からその問題を本当の工場ではどのようにしているかを考えたり、調べたりしていく方が、繋がりのある展開になると思う。
- (3) まとめとふりかえりの発表で、教師が比べて欲しい観点を示さず、自由に良かったこと、気づいたことを言わせていたので、子どもが考える焦点を絞りにくく、まとまりがなかった。

1月

- 1 場所 芦屋市立潮見小学校
- 2 参加人数 8 名
- 3 内容 子どもを繋ぐ学級経営
- 4 講師 芦屋市立潮見小学校主幹教諭
- 5 感想

- (1) 子ども主体で計画や運営を行い、活動に取り組むことの楽しさが事例から理解できた。
- (2) 子どもの気持ちに共感して、話を聴くと共に教師自身のことを語りながら子どもたちと共感し合えるようになりたい。
- (3) 学級の雰囲気を高めていくために教師自身が面白がって、活動していきたい。
- (4) 子どもたちに何を大切にしてほしいのか改めて考える場となった。

2月7日

- 1 場所 芦屋市立潮見小学校
- 2 参加人数 8名
- 3 内容 命の授業
- 4 講師 助産師
- 5 感想

- (1) 胎児の模型を見て、体内での発育の様子がよく分かった。
- (2) 恥じらいがあって子どもに対して話しづらい部分もあるが、命の大切さを訴えながら説明していけそうだ。
- (3) 妊婦モデル用のエプロンをつけてみると予想以上に動きづらいことが体感できた。妊娠中から子育てに参加できるようにしたい。

2月8日

- 1 場所 芦屋市立潮見小学校
- 2 参加人数 8名
- 3 内容 「モチモチの木」の音読指導
- 4 講師 ナレーター
- 5 感想

- (1) 声の高さは、文の初めを高くして、するりと意味のまとまりで区切って読むという読み方を知ると、普段、不必要な抑揚をつけて読んでいることがよく分かった。
- (2) 深く読解してこそ、声を立てる部分が分かると思った。
- (3) 登場人物の人柄を理解して声の表情に表したい。
- (4) 今日学んだことを活用して、クラスで朝の読み聞かせを行いたい。
- (5) 深く呼吸をして、長く息を出すようにしないと長文が読めない。呼吸の大切さを実感した。

2月13日

- 1 場所 芦屋市立潮見小学校
- 2 参加人数 9名
- 3 内容 第3学年国語科公開授業
- 4 講師 大阪教育大学准教授
- 5 成果

- (1) ワークシートは、班での話し合いにおいて考えを発言しやすい支援となっていた。
- (2) 「～という文から～な豆太だと考えました。」と話せているので、物語の叙述から考えようとしていることが窺えた。さらに考えを関連させて話させるような支援が必要だ。

6 課題

- (1) 大切な言葉である「臆病」について子どもはどのように理解しているだろうか。「怖い」とは違う意味を例示しながら理解を深めさせたい。
- (2) 教師が、具体的に子どもに身に付けさせたい力が理解できていないから、授業にその指導が表れていない。本時の目標は、能力が表れるように設定する。
- (3) 3択で考えるには無理が生じる。教師が、子どもの発言をまとめるのではなく、微妙な考えの違いを叙述を基に子どもの言葉で述べさせたい。
- (4) 物語を読むときには、場面で区切って学習するのではなく、登場人物の心情のまとまりで区切って学習すると子どもたちは、登場人物に同化して読むことができる。
- (5) 人柄をまとめるには、人柄を表す語彙の習得が必要である。そのためには、参考になる語彙集が必要であったり、子どもたちと授業の中で創り上げたりする過程が必要である。

2月20日

- 1 場所 芦屋市立潮見小学校
- 2 参加人数 8名
- 3 内容 道徳の特別な教科化に向けて、1年の振り返り
- 4 感想

(1) 道徳

- ①道徳全校研究会の授業において自分の考えをもたせた後、グループで討論する学習場面が印象的であった。他の人がどのような考えをもっているのかを知りたくなるような討議のテーマを設定したい。
- ②考える道徳、議論する道徳で学習した後、実践してみる期間を設定して、子どもたちが行動で表すようにチャレンジさせたい。
- ③評価をどのようにするか。毎時間の子どもの振り返りが大切になってくると思った。道徳の目標設定シートや道徳の振り返りシートが参考になった。4月に道徳の目標を設定し、学期ごとに振り返りシートで自分自身を見つめさせたい。
参考図書：『アクティブラーニングに対応した道徳授業』柳沼良太・竹井秀文著・教育出版

(2) 1年の振り返り

- ①授業と共に子どもたちを繋ぐ学級経営の難しさを痛感した。子どもの気持ちに寄り添いながら言葉かけしていくことを続け、子ども理解を深めたい。
- ②研究授業を複数回行うことで、鍛えられた。事後研究会を通して授業をどのように参観するのかも理解できた。本時だけでなく、単元構想ができるようになりたい。

- ③高学年女子の気持ちを掴むのが難しく、学級経営でも苦勞した。公平に接していくことをさらに心掛けたい。
- ④低学年から高学年まで授業を通して観ると、低学年から話すことをきちんと指導し、積み上げていくことの大切さを実感した。スピーチの時間を大切にして、担任している子どもたちの話す力をまとめに向けて育てていきたい。
- ⑤話すことや話し合うことの前に、自分の考えを書かせて持たせるようになってきた。どのようにしたら考えを書けるようになるのか。引き続き取り組んでいきたい。
- ⑥話型を使って、自分の考えをクラスの人と比べて話せるようになってきた。教師が、発言をまとめるのではなく、繋げるように問いかけていきたい。
- ⑦国語科の学習は、自分の考えを作り、話すための基礎・基本の学習に当たる。どの子どもも発言できるように授業を組み立てていきたい。
- ⑧同期の人たちの授業を参観すると各自の頑張りが伝わってきて、刺激を受けた。話し合う必然性がある話題を提供しながら、話し合う学習場面を数多く作り、子どもたちに経験させたい。